

フタモンマルクビゴミムシ

Nebria pulcherrima Bates
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

かつては普通種であったが、現在は全国的に絶滅あるいは危惧されている。本県でも1例の記録があるのみ。

分 布

本州、四国、九州に分布する。

種の特徴

体長 11～13 mm。やや扁平。全体光沢のある黄褐色、上翅に計2個の大きな黒紋を持つ。主に平地の河川敷に生息し、夏期、河川敷や空き地でみられる。

生息を脅かす要因

県内の生息状況ならびに減少要因が判明していない。今後の推移を注視する必要がある、近くランクアップを検討する必要がある。近年は河川敷や空き地は急速に開発が進んでおり、本種には大いに脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○												

コハンミョウモドキ

Elaphrus punctatus Motschulsky
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

かつては普通種であったが、現在は全国的に絶滅が危惧されている。本県では戦前の記録があるのみ。

分 布

北海道、本州中部以北に分布する。現在でも本州北部や北海道では局地的にみられる。

種の特徴

体長約6 mm。背面はやや隆起する。全体光沢のある暗銅色、上翅に複数の眼状模様の彫刻がある。後翅が無く、飛べない。主に平地に生息し、初夏、湿地でみられ、動作は活発。

生息を脅かす要因

県内の生息状況ならびに減少要因が判明していない。今後の推移を注視する必要がある、近くランクアップを検討する必要がある。近年は湿地は急速に開発が進んでおり、本種には大いに脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

マスゾウメクラチビゴミムシ

Suzuka masuzoi S. Uéno
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

本県固有種で、スキー場開発のアセスメントで得られた標本により、新種記載された。記載された後、再確認されたが（北山、2008）、現地はダム開発が行われ、今後の確認は困難な状況である。

分 布

所属する属は数種のみで、鈴鹿山脈～琵琶湖を中心に分布する。本種は其中で北域に分布する種である。本県固有種で、勝山市一本松湯の谷でのみ記録がある。

種の特徴

体長約3 mm。メクラチビゴミムシの一種であるが、瓢箪形の特異な種。アメ色で、複眼と後翅は退化している。地下性。本種の生態は不明である。湿った大きな石の裏に付着して採れるという。発生期間は不明、恐らく通年みられるだろう。

生息を脅かす要因

本種の様な地下性甲虫類は局地的分布を示す事が多く、本種の分布も勝山市一本松湯の谷に限定されると推測される。このような生物は逃げ場のない環境に依存しているため、僅かな環境の変動でも影響を受ける。現在、当地はダム建設により調査は困難である。ランクを再検討する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、北山（2008）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○		